

乳がんについて知るうえであなたとあなたの大切な人のために

日本では16人に1人がかかるといわれる乳がん。治療率を高めるには「早期発見」が基本です。今回は「乳がん治療の様々な選択肢」についてご説明します。



宇都宮セントラルクリニック理事・放射線科医 佐藤俊彦氏

・セントラルメディカル倶楽部顧問医
・野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長

■主な著書
『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』(幻冬舎)、他多数

小さい乳がんは、脈管やリンパ管浸潤して、いる可能性がきわめて少ないため、局所治療で完治する確率が高くなります。乳がんを早期に見つける(特に1センチ以下)ことで治療の選択肢は大きく広がります。

乳がんの標準治療には、手術(摘出や温存)、放射線治療、ホルモン療法などがあります。最近では、患者様の身体への負担を軽くし社

会復帰を早くする低侵襲治療への期待も高まっており、ラジオ波やHIFU(ハイフ)による焼灼治療、凍結療法であるクライオサージエリーなど局所療法の研究も進んでいます。当院では、トモシンセシスやPEM(乳房専用PET装置)により、1センチ以下の乳がんを早期に見出し、患者様の治療ニーズにお

応えしています。

治療後の経過観察は、最も重要で、小さいうちに(無症状のうち)に画像診断で見出し、局所治療を行うことが今後のトレンドであると同時に、治療法の発展により、ますます超早期発見のニーズが高まっています。

佐藤先生新刊「超早期乳がん最新治療」(現代書林刊)



次回は10月16日掲載予定です。

10/5(土) 13:30~「第4回とちぎ健康セミナー ピンクリボン2013」開催。詳しくは下記へ。

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック

宇都宮市屋板町 561-3

☎ 028・657・5215

<http://www.ucc.or.jp>

宇都宮セントラルクリニック 検索

PR